

# インタープリテーションの参加者って誰？

山田菜緒子

(Division of Sport Science in Pusan National University)

Captive audience、Noncaptive audience という言葉を聞いたことはありますか？実際には英語圏でも使われていない言葉ですが、インタープリテーションを学ぶ人には広く知られている言葉です。これらは、インタープリテーションの世界的権威である Sam Ham 教授のベストセラー「Environmental Interpretation」に出てきます。これらの言葉の意味を訳すと表 1 のようになります。

表 1. Captive audience と Noncaptive audience の違い

<b>Captive audience</b> (捕らわれの身である参加者)	<b>Noncaptive audience</b> (捕らわれの身ではない参加者)
自発的に参加していない 時間の拘束がある 外的な報酬が重要 注意を払わねばならない 公式、学校教育的な手法を受け入れる つまらなくても注意を払う努力をする	自発的に参加している 時間に拘束されない 外的な報酬は重要ではない 注意を払う必要がない 非公式な雰囲気や教育的ではない手法を期待している つまらないときは注目しない
参加する動機の例： • 成績 • 卒業資格 • 認定 • 資格 • 業務・雇用 • お金 • 昇進 • 成功	参加する動機の例： • 興味 • 面白さ・楽しさ • エンターテイメント • 自己を豊かにする • 自己の向上 • よりよい人生 • レジャー（他に良いものがない）
典型的な場： • 学校の授業 • 職業訓練 • 専門技術習得のためのセミナー • 資格取得に必要なコース（運転免許など）	典型的な場： • 公園、博物館、保護地など • コミュニティ向けプログラム • 家でテレビを観る • ラジオを聞く、雑誌を読む

(Ham, 1992, p. 7 を訳出)

これを初めて読んだのは、インタープリテーションを学び始めた頃だったように思いますが、目から鱗が落ちる思いをしました。単純なことのようには思えますが、私はこれを分かっているのと分かっていないのでは、インタープリテーション的 (Interpretive) になるかならないかの最初のステップ、かつ最重要のステップだと考えています。

インタープリテーションが使われる場を考えると、レクリエーション（もしくはレジャー）で訪れることがほとんどです。そのような場にいるのは捕らわれの身ではない参加者 (Noncaptive audience) であり、決められた時間その場にいる必要もなければ、報酬も罰もありません。つまり、参加者は何にも捕らわれておらず、主導権を持ち、自由意志で参加を決められます。著者の Ham は、「参加者がそこに留まり注意を払うのは、そうしたいからだけです。プレゼンテーションが面白くなかったり、学術的過ぎると思えたり、理解や参加にとっても努力しなければいけないと感じた

ときには、おそらく注意を払わないでしょう (p. 6)。」と述べています。Captive audience が「そうしなければいけない」のに対して、Noncaptive audience は「そうしなければする」のです。(試験があるので、その1時間先生の話の聞かなければいけない捕らわれの学生に対して、面白そうだから記事を読んでみたり、好きな時に展示を見てみたりする捕らわれていないインタープリテーション参加者...) この考え方は、参加者に選択の自由があるという Free-choice learning というインフォーマル・ラーニングの考え方を表しています。

インタープリテーションはサービスですので、受け取る人に押し付けることができないのは元より、受け取る人にとって必要ではないもの(でも、あると嬉しい)を経験して、心地よく思っただけのものです。Noncaptive audience の特性を知ってから、自分が参加者としてそうしたいのはどのようなときか?を考えてインタープリテーションをデザインする、ということを常に意識できるようになりました。400 ページを超える大著「Environmental Interpretation」の始まり 5 ページ目に出てくる原則です。初めが肝心! シンプルなことが本質!

参考文献:

Ham, Sam H. (1992). *Environmental interpretation: A practical guide for people with big ideas and small budgets*. Golden, Colorado: North American Press. (ちなみに、この本は現在購入できませんが、改訂版の位置づけである、*Interpretation: Making a difference on purpose*が2013年6月に出版される予定です。)

May, 2013